

# **(仮称)はこだて観光圏整備計画 (素案)**

**「食は“函館・南北海道”に在り」**

**～今だけ、ここだけの旅三昧・食三昧～**

**平成22年1月**

**函館市・北斗市・松前町・福島町・知内町・木古内町・七飯町・鹿部町・森町・八雲町・長万部町  
・江差町・上ノ国町・厚沢部町・乙部町・せたな町・奥尻町・今金町**

## 目 次

<b>1 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針</b> ……	<b>2</b>
・背景	
・目的	
・観光圏の概要	
・観光圏の現状	
・観光圏内の主な観光資源	
・観光圏の課題と課題解決の方向性	
・観光圏のブランディングコンセプト	
<b>2 観光圏の区域</b> ……	<b>18</b>
<b>3 滞在促進地区の区域</b> ……	<b>19</b>
<b>4 観光圏整備計画の目標</b> ……	<b>22</b>
<b>5 観光圏整備事業に関すること</b> ……	<b>23</b>
・宿泊魅力の向上に関する事業	
・観光コンテンツの充実に関する事業	
・交通・移動の利便性向上に関する事業	
・観光案内・観光情報の提供に関する事業	
・その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する事業	
<b>6 計画期間等</b> ……	<b>29</b>
<b>7 その他市町村又は都道府県が必要と認める事項</b> ……	<b>30</b>
<b>8 協議会に関する資料等</b> ……	<b>34</b>
<b>9 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容</b> ……	<b>35</b>

# 1

## 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する 基本的な方針

### 1 背景

#### (1) 全国の動向

近年、市町村を取り巻く環境は、高齢社会の到来や人口減少などに起因する就業者の減少のほか、景気低迷などの社会情勢の変動による所得の低下、物価高に起因した消費行動の減衰や観光需要の減退など、地域経済にとって厳しい状況となってきた。また、急速な国際化や情報化が進み、国内外を問わず地域間競争が一段と激しさを増してきており、地域全体の疲弊が懸念されている。

このような状況にあつて、国においては「観光」を重要な施策と位置づけ、平成19年1月に「観光立国推進基本法」を施行し、同年6月には観光立国推進基本計画を閣議決定するなど、国内外の観光客の来訪促進を進めており、平成20年10月には、新たに「観光庁」を設置し、観光振興への取り組み強化を図ったところである。また、平成17年からは、平成22年までに訪日外国人観光客を1,000万人とすることを目標とした「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を実施しており、魅力ある観光地づくりによる「観光立国」実現に向けた取り組みを展開している。

これに加えて、平成20年7月には、観光客の来訪や滞在のために地域が一体となった取り組みを行ない、魅力ある観光地域を創出することを目的に、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律」（観光圏整備法）が施行されたところである。

#### (2) 函館・北海道の動向

函館市を中心とした北海道地域においては、昭和50年代後半から観光入込客数を大きく伸ばし、さらには昭和63年の青函トンネルの開通により、北海道と本州を結ぶ新たな玄関口として、鉄道による安定的な人員輸送が図られるようになり、多くの観光客が訪れているが、近年においては、全国的な観光需要の減退傾向等もあり、非常に厳しい状況となっている。

北海道地域の高速交通の一翼を担う函館空港は、羽田空港・関西空港・中部空港といった大都市圏のほか、丘珠空港や地域内にある奥尻空港など道内外との定期航空路を有し、韓国やロシアとの国際定期航空路のほか、台湾など東アジアからの多くのチャーター便が運航されるなど、年間約200万人が利用する地方基幹空港であるものの、平成21年度の利用者は150万人台にまで落ち込むことが危惧されるなど、利用者の増加が地域の大きな願いとなっている。重要港湾である函館港には、国内外から年間10隻程度の大型旅客船が寄港しているが、観光客増加に重要とさ

れている外国人旅行客の確保のためにも、今後さらなる寄港の増加が期待されているところである。また、函館と青森および大間を結ぶフェリーが就航しているが、この航路の存続のためにも、海上交通を活用したさらなる集客が期待されているところである。

一方で、平成22年度の東北新幹線新青森開業、その5年後の平成27年度には北海道新幹線新函館開業が予定されていることから、移動時間の短縮と大量人員輸送による東北地域や首都圏・北関東地域からの観光客の増加が期待されている。

## 2 目的

本整備計画は、全国有数の観光地として知られる異国情緒溢れるまち函館市を中心として、新日本三景にも選ばれ道南唯一の国立公園である大沼を有する七飯町、桜で名高く古くからの城下町として歴史のある松前町、ニシン漁全盛期の栄華を残す江差町、ブナ林など手つかずの自然溢れる離島奥尻町、また、北海道新幹線新函館開業時の新駅が設置される北斗市、北海道縦貫自動車道の整備済ICを有する八雲町など、自然や歴史、食などの個性豊かな観光資源とともに、地域における各種交通網を有する南北海道全18市町が、渡島や檜山という圏域を越えて連携し観光圏を形成するものである。

当地域においてはこれまで、18市町を車で巡るドライブ周遊観光促進事業や、圏域のスタンプラリー事業、観光や物産に関するフェアの開催を通して観光における連携を深めてきたほか、圏域の観光関係者で構成する道南観光戦略会議において、18市町の各地を巡る15の周遊観光モデルルート of 構築、さらには、北海道観光振興機構の事業を活用し滞在型の周遊観光メニューの創出に取り組んできたところである。また、江差町、松前町、上ノ国町の3町で構成する「北海道歴史倶楽部」は、にしんに関連する食文化、歴史的建造物、伝統芸能を活用した広域観光ルートの開発推進に取り組んでいるほか、七飯町、森町、鹿部町の3町で構成する「環駒ヶ岳広域観光協議会」においては、3町が連携したイベント開催や観光プログラムを開発し、駒ヶ岳周辺の観光客増加を目指した活動を展開している。

このように、南北海道全18市町がさまざまなかたちで各地の資源を活用した観光振興に取り組んできているが、本圏域は、日本海、津軽海峡、内浦湾・太平洋に囲まれた数多くの海産物がとれる地域であり、さらには、豊富な農産物・畜産物のほか、酪農による乳製品を生産するなど、食材の宝庫であることから、今後は、「食」をキーワードに圏域一丸となったブランド化を推進し、地域の「食」と観光の融合とその相乗効果による観光圏全体の魅力向上や、他地域との競争力の強化を図るとともに、圏域の魅力を国内外に広くPRすることにより観光客の来訪と滞在を促進し、南北海道地域全体の観光振興・地域振興に資することを目的に、本計画を策定するものである。

### 3 はこだて観光圏の概要

#### (1) 圏域の地勢

本圏域は、北海道南部に位置し、圏域面積は 6,566 km<sup>2</sup>と北海道全体の約 8%を有する地域である。圏域を構成する市町は、函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、せたな町、奥尻町、今金町の 2 市 16 町となっており、日本海、津軽海峡、太平洋・内浦湾に面し、山並みや湖沼、海岸線など変化に富んだ自然景観となっている。また、道内では比較的温暖な気候となっており、本州と北海道の植生が混在する独特の自然風土を育んでいる。

地域区分上は、渡島地域（2 市 9 町）と檜山地域（7 町）に区分されるが、「新・北海道総合計画」の推進において、両地域が一体となった連携地域として、産業面や保健・医療・福祉面、環境面や教育面など、多様な分野において連携を図っている。

#### (2) 「歴史・文化」を誇る函館・南北海道

圏域には、全国的に有名となっている函館、大沼、松前といった観光スポットのほか、道内最古の歴史を誇る上ノ国や江差など、北海道の中でも他地域とは異なる歴史や文化を有している。旧石器時代の石器が多数出土しているピリカ遺跡、国宝である中空土偶が出土した著保内野遺跡や鷲ノ木遺跡の環状列石などの縄文文化遺産、特別史跡五稜郭跡や上之国館跡、福山城跡などの史跡や文化財も数多く存在している。また、江差追分や松前神楽などに代表される郷土芸能も多く、地域で受け継がれており、それぞれの地域において歴史や伝統を活用したまちづくりが進められている。さらに、道南各地には温泉が点在し、特に湯の川温泉は、北海道を代表する温泉地として親しまれ、古くから多くの観光客が訪れている。

#### (3) 「食の宝庫」函館・南北海道

また、地域の基幹産業である一次産業をみると、農業においては、北海道農業の発祥の地として、豊かな自然と気候を生かした稲作・野菜・酪農・畜産のほか、花卉や園芸など、地域ごとに特色ある品目の農業生産が展開されており、「函館育ち」の名称で広域ブランドの取り組みが進められている。水産業では、海域ごとにイカ・昆布・マグロのほかホタテなどの貝類や豊富な魚種が水揚げされ、多種多様な漁業が営まれており、北海道内の主要な生産地となっている。

近年は、これら農・水産物のより一層の地産地食が促進され、魅力溢れる食文化の形成が進められているほか、地域に集積する高等教育機関や試験研究機関、地元企業により地場産品の新規開発や高付加価値化などが進められており、産学官が連携した本圏域の新たな食の魅力づくりにも取り組んでいることから、これらの食を活用した観光振興が展開されている。

## (4) 構成市町の概要

### ①函館市

函館市は、北海道南端の渡島半島南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、温暖な気候や恵まれた自然、集積した都市機能、さらには歴史と伝統に培われた文化、豊富な人文資源など数多くの優れた特性を背景に、北海道と本州を結ぶ交通の結節点として、また、南北海道における行政・経済・文化の中核都市として成長してきた。



このような中、昭和63年の青函トンネル開通や平成元年の「国際観光都市宣言」以後、恵まれた美しい自然と歴史的文化遺産を生かした観光資源・施設の整備や、航空路線網の拡大など交通アクセスの充実を図ってきたほか、イカや昆布のほか「戸井マグロ」など豊富な海産物による魅力溢れる食文化を形成しており、歴史とロマン溢れるまち「函館」は、全国有数の観光地として訪れる観光客を魅了している。

### ②北斗市

北斗市は、北海道南端の渡島半島南部に位置し、南部は函館湾に面し、北西部の脊梁山脈が南東部に緩傾斜となって農耕地が拓け、東側の平坦な大野平野にも大規模な農耕地が拓けており、「北海ウド」等の特産品を生産するなど、豊穡な大野平野と温暖な気候に恵まれ、農業、漁業、工業を中心として発展してきた。



対馬海流の影響を受けた海洋性の気候であることから、降雪量が少なく比較的温暖で暮らしやすい地域であり、恵まれた自然や歴史、文化を後世に継承し、また、平成27年度に予定される北海道新幹線開業時には新駅が設置される予定であり、新たな交通の要衝として道南地域発展の一翼を担っている。

### ③松前町

松前町は、北海道の最南端に位置し、西は日本海、南は津軽海峡に面し、対馬海流の影響を受け、夏には雨量が比較的多く、冬は積雪量が少なく、また、寒暖差も少なく年間平均気温の高い温暖な気候となっている。



白神岬の絶景、折戸浜・小浜の海岸景勝など、海岸線は変化に富んだ景観を有しているほか、オオミズナギドリの繁殖地として知られる渡島大島、ケイマフリなどの繁殖地である松前小島とともに、松前・矢越道立自然公園に指定されており、素晴らしい景勝地となっているほか、近年は津軽海峡でとれる「松前マグロ」が新たな食の魅力を作り出している。

#### ④福島町

福島町は、北海道南端に位置しており、北は秀峰大千軒岳、南は紺碧の津軽海峡に面し、道南の知床と呼ばれる海岸線には奇岩・怪岩の絶景が続く自然豊かな町である。北海道初の横綱「第41代横綱千代の山」と、国民栄誉賞を受賞した「第58代横綱千代の富士」の生誕地であり、「横綱記念館」をはじめ大相撲に関連した街並みが整備されているほか、世界最大の海底トンネル工事の技術や記録を後世に伝える「青函トンネル記念館」では、海峡のドラマが実感できる。また、「千軒そば」と呼ばれる十割そばや、近年は黒米「夢むらさき」の栽培に取り組むなど、魅力ある食文化を形成している。



#### ⑤知内町

知内町は、東側の津軽海峡に面して平野や段丘地が広がるほか、三方を山岳に囲まれ、自然の恵み豊かな町である。海岸線は、砂浜が連なるほか、蛇ノ鼻、爺岩、イカリカイ島、立岩、地獄澗など、形も名前も奇妙な奇岩や怪岩が続く変化に富んだ岩礁地帯となっている。また、牡蠣やニラの産地として知られるほか、海と山の恵み豊かなまちとして数多くの農水産物を生産している。



#### ⑥木古内町

木古内町は、三方を渡島山脈の桂岳・梯子岳・袴腰岳等の山々に囲まれ、北部は渡島山脈の分水嶺を境界とし、南部は総延長約15kmの海岸線を有している。

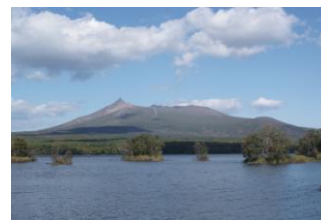
気温は比較的温暖だが、春や冬には北西の風が、夏や秋には南東の風が多く吹き、降雪量は多く特別豪雪地帯として指定されている。

津軽海峡や千軒の山並みが美しく、総面積のうち約90%を山林が占める自然豊かな町となっているほか、長いもやはこだて和牛の生産地としても知られている。



#### ⑦七飯町

七飯町は、北海道の南部に位置し、秀峰駒ヶ岳や大沼国定公園を北に控え、横津岳から南西斜面に広がる町は、温暖な気候と肥沃な土壤に恵まれており、北海道開拓の基礎となる近代農業発祥の地と言われる。また、新日本三景の一つ「大沼国定公園」を擁し、大沼湖・小沼湖、秀峰駒ヶ岳等の大自然は、ヨーロッパ型リゾート地としてその名を馳せている。近代農業の発祥たる伝統を受け継ぐ農業先進地域であり、リンゴの生産地として広く知られるほか酪農や畜産も盛んであり、優れた自然環境と清涼な水と空気に恵まれたまちとして発展している。



#### ⑧鹿部町

鹿部町は、北海道の南部、渡島半島の東部に位置し、北東に太平洋・内浦湾を望む雄大な駒ヶ岳山麓に町が広がっている。

駒ヶ岳から広がる豊かな緑のほか、豊富な海の幸が捕れる内浦湾に囲まれた自然溢れる町であり、ホタテの産地として、また特産品としてたらこも有名である。町内いたるところに30箇所以上の温泉源がある温泉のまちでもあり、中でも「しかべ間歇泉」は、国内でも珍しい天然温泉の噴水として広く知られている。



#### ⑨森町

森町は、北部に太平洋・内浦湾、南部には緑豊かな秀峰駒ヶ岳を囲むように位置する漁業・農業が盛んな町であり、盛夏でも30℃を越えることは希で、積雪も少なく、北海道の中でも温暖な地となっている。

古くはアイヌ語でオニウシ（樹木の多くある所）と呼ばれていた歴史ある漁業の町として知られるほか、染井吉野（桜）が群生する北限といわれ、青葉ヶ丘公園やオニウシ公園には、約1,500本の桜があり、多くの方に親しまれている。

ボタンエビやホタテなどの海産物のほか、かぼちゃやメロン、プルーン、ブルーベリーなどの農産物も豊富であり、近年は地熱水を利用したトマトの栽培を行っている。また、全国駅弁ランキングで常に人気を誇る「いかめし」のまちとしても広く知られている。



#### ⑩八雲町

八雲町は、北海道渡島半島の北部に位置し、東は太平洋・内浦湾、西は日本海に面する「二つの海」をもつ日本で唯一のまちとして知られている。

太平洋側と日本海側では気候が異なり、日本海側では暖流の影響を受け平均気温が高く、太平洋側では海洋性気候のため夏期に霧が発生するなど特有の気候となっており、このような気候を利用し、古くから酪農が発展している。

また、二つの海から水揚げされる豊富な海の幸として、内浦湾のホタテ、日本海側のアワビが有名であるほか、北海道でも有数の酪農をはじめとする山の幸では、チーズやハム・ソーセージなどが知られるなど、海と山、両方の豊かな資源に恵まれた土地である。



### ⑪長万部町

長万部町は、渡島北部に位置し、内浦湾に沿って沿岸漁業が盛んな町である。アイヌ語の「オ・サマム・ベツ」(川尻が横になっている川という意味)に由来する地名は、難読地名としても広く知られている。

長万部川の支流、二股川の上流には、本格的な湯治場として有名な「二股ラヂウム温泉」があり、石灰華ドームの奇観も印象的な秘湯として親しまれている。

カニのまちとしても有名であり、駅弁大会で不動の人気がある「かにめし」は長万部を代表する名物として広く知られている。



### ⑫江差町

江差町は、北海道の南西部に位置し、中央部を厚沢部川が流れて2分し、東部は山岳が多く、山ろくは丘陵になって海岸に迫っている。沖合500mに浮かぶ鷗島は自然の良港を形づくり、市街地は、この対岸に発達していて、北部は厚沢部川流域を中心に水田耕作地として発達している。

江戸期のニシン漁最盛期には「江差の五月は江戸にもない」といわれる程繁栄を極め、北前船交易によりもたらされた江差追分などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承されるなど、北海道文化発祥の地といわれる。

新鮮な海の幸の宝庫であり、ウニやアワビなどの魚介類や昆布などの海藻類がとれるほか、江差を代表する「ニシンそば」は郷土食として広く知られている。



### ⑬上ノ国町

上ノ国町は、北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、勝山館の天守閣ともされる夷王山からは遠くの奥尻島や渡島大島など眼下に日本海を一望できる。北海道倭人文化はここから生まれ、日本海北方交易の拠点としても栄え、勝山館を中心に多くの歴史遺産があり、また町の中心部を流れる天の川と、織姫と彦星の逢瀬を仲立ちする“かささぎ”にちなんで名付けられた「天の川かささぎロード」があるなど歴史とロマンに満ち溢れたまちとして知られる。

日本海に面していることから、豊富な魚種の海産物が一年を通じてとれるほか、山あいでは溪流釣りにより川魚も楽しむことができる。



#### ⑭厚沢部町

厚沢部町は、北海道の南部に位置し、古くからの歴史と、豊かな自然環境の中、農林業を基幹産業として発展してきた、美しい森に囲まれた田園のまちである。

メークイン発祥の地として、広く全国に知られるが、大根やとうもろこし、にんじんやアスパラガス、大豆など豊富な農産品の生産地である。町域の8割は森林が占めており、ヒノキアスナロ（ヒバ）や五葉松の北限、トドマツの南限となっていることから、学術的に非常に貴重な地域として知られる。



#### ⑮乙部町

乙部町は、北海道南部、渡島半島の西部に位置し、東には渡島山脈、西は日本海に面し、日本海を北上する対馬暖流の影響を受け、比較的温暖な地となっている。

農業と漁業が盛んなまちであり、ゆり根や塩辛・するめなどの水産加工品があるほか、変化に富んだ海岸の造形美が映えるマリンタウンであり、元和台海浜公園「海のプール」は全国的にも珍しい海水浴場として広く知られている。



#### ⑯せたな町

せたな町は、北海道の南西部、日本海に面した檜山北部に位置し、北と南には1,000m級の山々が連なり、西には日本海を挟んで奥尻島を望む。道立自然公園を有し、豊かな自然環境の中、農業や酪農、漁業が盛んであり、羊肉や豚肉のほか乳製品も豊富であるとともに、ウニやアワビの産地としても知られる。

自然が創った芸術品とも呼ぶべき日本海の変化に富んだ海岸線は、無数の奇岩・怪岩や断崖絶壁の景勝地となっており、マリンスポーツや海水浴のメッカとしても広く知られている。



#### ⑰奥尻町

奥尻町は、北海道の南西部、最西端に位置する離島であり、外周が約84km、面積が142.98km<sup>2</sup>と北海道内の離島では2番目に大きな島となっている。島の全体が花崗岩の段丘で形成されており、東海岸は平野部が多く、西海岸は比較的断崖が続き、四方を日本海に囲まれた複雑な海岸線が続いている。

漁業が主産業であり、島を代表するアワビのほか、ウニやイカ、豊富な魚種が近海で捕れる新鮮な海の幸の宝庫ともなっている。



⑱今金町

今金町は、北海道渡島半島の北部に位置し、南のユーラップ山系、北の狩場山系に挟まれ、海岸線をもたない山間の町である。豊かな自然が残されている後志利別川流域は、かつて一面の原生林であったとは信じられないほど、北海道らしい美しい田園風景が広がっている。

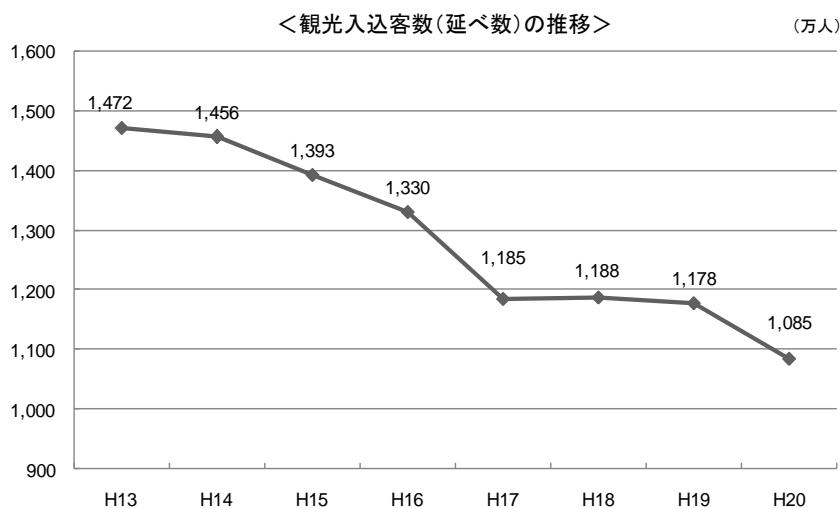


肥沃な土壌や気候の恩恵を受けて、南北海道随一の「農業のまち」として農業・酪農が発展し、男爵いもや軟白長ネギのほか今金米などの品質の高い農産物の産地として知られている。

## 4 はこだて観光圏の現状

### (1) 観光入込客数の推移

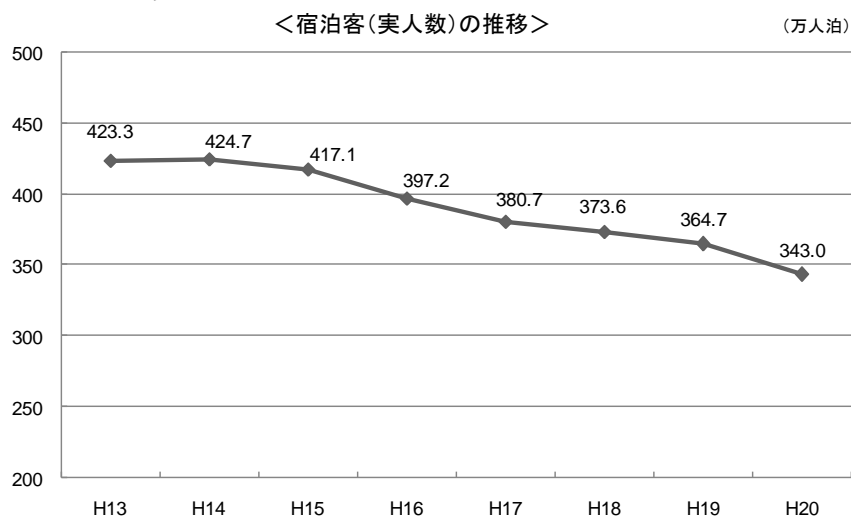
本圏域全体の観光入込客数は、地域間競争の激化や長引く景気低迷の影響から、平成13年度以降減少傾向にある。特に、近年の経済状況の悪化や燃料費高騰、さらには新型インフルエンザの流行などにより、観光需要の減退に伴う来訪観光客の落ち込みが懸念されている。



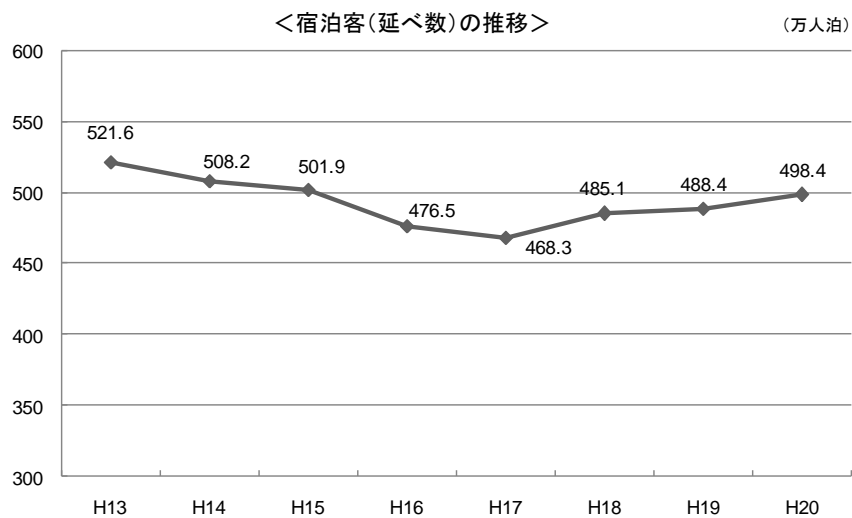
(資料: 北海道観光入込客数調査報告書)

### (2) 宿泊客数の推移

観光動向が団体型旅行から個人・小グループ型旅行へ移り変わり、また近年は「安・近・短」型の観光への指向が強まるなど、観光ニーズも多様化するなか、観光入込客数の減少に比例し宿泊客数も減少傾向で推移してきたが、宿泊延べ数においては、平成18年度以降増加していることから、近年、宿泊客の滞在化が進展してきていることが窺われる。



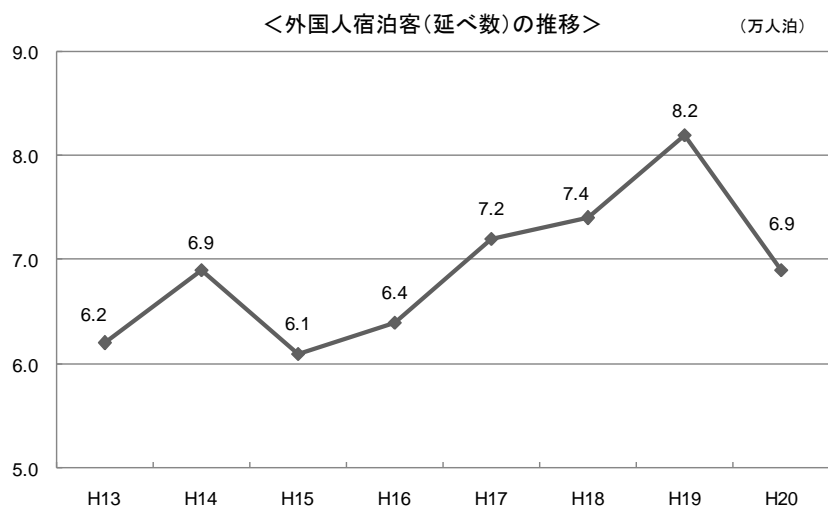
(資料: 北海道観光入込客数調査報告書)



(資料:北海道観光入込客数調査報告書)

### (3) 外国人宿泊客数の推移

国における「ビジット・ジャパン・キャンペーン」のほか、東アジア地区における訪日旅行の増加や北海道人気などもあり、外国人観光客は増加傾向で推移してきたところだが、平成20年度においては、世界的な経済危機の影響から、大幅な減少となっている。



(資料:北海道観光入込客数調査報告書)

## 5 観光圏内の主な観光資源

### (1) 主な観光資源

本圏域内の主な観光資源を一覧に整理すると、資料編の「資料1：観光圏内の主な観光資源」のとおりとなる。

### (2) 観光案内所

本圏域内の各市町にある観光案内所等は、次のとおりである。

市町	名称	所在地	電話番号
函館市	(社)函館国際観光 コンベンション協会	〒040-0054 函館市元町33番14号 旧イギリス領事館内	0138-27-3535
	函館市観光案内所	〒040-0063 函館市若松町12-13 JR函館駅内	0138-23-5440
	函館市元町観光案内所	〒040-0054 函館市元町12-18	0138-27-3333
北斗市	北斗市観光協会	〒049-0161 北斗市飯生3-4-1 北斗市商工会内	0138-73-2408
	北斗市観光協会支所	〒041-1201 北斗市本町173 北斗市商工会支所内	0138-77-8107
松前町	松前観光協会	〒049-1507 松前郡松前町西館68	0139-42-2726
	松前町観光案内所	〒049-1511 松前郡松前町松城	0139-42-3868
福島町	福島町観光協会	〒049-1331 松前郡福島町字三岳32-1 福島町商工会内	0139-47-2272
知内町	知内観光協会	〒049-1103 上磯郡知内町字重内66-77 知内商工会内	01392-5-5340
木古内町	木古内町観光協会	〒049-0422 上磯郡木古内町木町217 木古内商工会内	01392-2-2046
七飯町	大沼国際交流プラザ (大沼観光案内所)	〒041-1354 亀田郡七飯町字大沼85-15	0138-67-2170
鹿部町	鹿部温泉観光協会	〒041-1402 茅部郡鹿部町字鹿部130-1 鹿部商工会内	01372-7-3500
森町	森観光協会	〒049-2325 茅部郡森町字本町6-22	01374-2-2432
八雲町	八雲観光協会	〒049-3107 八雲町本町265-1	0137-63-2525
	熊石観光協会	〒043-0416 八雲町熊石雲石町150 八雲商工会熊石支所内	01398-2-2255
長万部町	長万部観光協会	〒049-3521 長万部町字長万部453-1 長万部商工会内	01377-2-2270
江差町	江差観光 コンベンション協会	〒043-8560 檜山郡江差町中歌町193-1	0139-52-4815
	繁次郎観光案内所	〒043-0024 檜山郡江差町字尾山町1-1	0139-52-1177
上ノ国町	上ノ国町観光協会	〒049-0611 檜山郡上ノ国町大留244	0139-55-2121
厚沢部町	厚沢部町観光協会	〒043-1112 檜山郡厚沢部町緑町72-1	0139-64-3738
乙部町	乙部町観光協会	〒043-0102 乙部町字元町200-1	01396-2-2920
せたな町	せたな観光協会	〒049-4803 久遠郡せたな町瀬棚区本町365-4	0137-87-2888
奥尻町	奥尻島観光協会	〒043-1401 奥尻郡奥尻町字奥尻	01397-2-3456
	奥尻島観光案内所	〒043-1401 奥尻郡奥尻町字奥尻	01397-2-3096
今金町	今金町観光協会	〒049-4307 瀬棚郡今金町字今金142-39 デ・モーレン内	0137-82-3561

## 6 はこだて観光圏の課題と課題解決の方向性

### (1) 圏域における基本的課題

#### ① 宿泊施設に関すること

- ・シティホテル・ビジネスホテル・温泉旅館など多様な宿泊施設が充実し、個人客や小グループから団体客まで、さまざまな形態の観光客に対応が可能だが、観光客の満足度を高める「連泊滞在型」のシステムが不十分となっている。
- ・近年では、特定地域の温泉宿泊施設などにおいて連携した取り組みがみられるようになってきたが、未だ十分な連携には至っていない。

#### ② 観光コンテンツに関すること

- ・圏域内には歴史・文化・自然・産業が融合した豊富な観光資源があるものの、地域内で評価がされていない、注目されていないなど、その価値が認知されていなかったり、十分な活用がなされていない。
- ・地元で採れる豊富な食材（農産物・海産物など）と、その食材を使った魅力溢れる郷土の食文化を有しているが、魅力ある情報発信が十分になされていない。
- ・既存観光資源のイメージが固定化し、魅力ある食材など、隠れた観光資源の認知度が低い。
- ・体験型プログラムや、地元の人との交流機会が十分に創出されておらず、長期滞在型観光に向けた受入体制・滞在プログラムが不足している。
- ・圏域内にある各種観光資源や体験型プログラム、「食」、さらには交通アクセスまでを連携させた観光プランを提供することができる、観光客のニーズに合った観光しやすい仕組みの工夫や、広域観光のコーディネート機能の確立が課題である。

#### ③ 交通アクセスに関すること

- ・圏域内における目的地までのアクセス環境が十分整備されておらず、面積の広さや移動距離の長さが周遊観光の意欲低下を招くだけでなく、2次交通の乗り継ぎ問題など、移動の利便性が悪く、周遊化が図られていない。
- ・また、旅客船が寄港する函館港においても、旅客船受け入れのインフラが十分に整備されていないため、観光地へのアクセスに関しての同様の課題を指摘されている。

#### ④ 観光案内・観光情報等に関すること

- ・観光関連の団体、事業者等の相互理解や横の連携が不足している。
- ・圏域住民の観光に対する理解度が低く、観光客の受入姿勢やホスピタリティが十分とはいえない。
- ・外国人観光客の受入体制が弱い。

- ・各市町や各観光協会でホームページによる情報発信等が行われているが、広域的に結びつく情報発信がされておらず、圏域にとらわれない観光客の旅行行動・観光ニーズに合った情報提供が十分になされていない。

## ⑤ その他

- ・圏域内が一体となった観光PR等の誘客促進が不足している。
- ・食の魅力や食の安全など、多様化する観光ニーズを的確に把握していく仕組みの構築が必要である。
- ・観光地域づくりをリードする人材の育成と重層化が求められる。

## (2) 課題解決の方向性

### ① 宿泊地の魅力向上の必要性

- ・宿泊地の魅力を高めることは、観光客の満足度向上、リピーター化の促進、滞在化の実現において大変重要な要素となっている。魅力を高めるうえでは、それぞれの宿泊施設のサービスを常に向上させていく努力も不可欠だが、一次産業と連携した「地産地食」や、体験型観光メニューとの連携など、単なる宿泊地から観光地へと、地域全体として魅力向上を図ることが重要である。
- ・連泊や長期滞在型の観光振興を進めるうえでは、食事が重複献立にならない工夫を図ったり、泊食分離に取り組むなど、宿泊の魅力を高めるほか、異なる施設に宿泊する場合にあっても、圏域内連泊割引などを行うなど、新たな魅力づくりが求められる。

### ② 観光コンテンツのさらなる充実

- ・圏域内に存在する観光資源のブラッシュアップや、農漁業と連携した体験型観光メニューの充実を図るほか、地産地食の推進、周遊観光を楽しむ新たな観光資源の開発、温泉資源等を活用した新しいメニューなど、さまざまな観光ニーズに対応した新たな魅力づくりを進めていくことが重要である。
- ・圏域内における食メニューや体験型プログラム等は、同様の内容で重複することも多いことから、滞在型観光を促進するうえでは、地域独自の要素を加えたオリジナリティ溢れるメニューとして魅力向上を図るとともに、リピーターや長期滞在者も楽しめるメニューとして飽きさせない工夫を追求することが求められる。
- ・これらを実現するうえでは、それぞれの地域や取り組み団体が連携し、情報共有や情報提供を相互に行うなど、相乗効果が生まれるようなネットワークを構築していくことが重要である。

### ③ 交通アクセスや移動の利便性向上

- ・当圏域は広い地域で構成されており、かつ離島である奥尻島を含む地域となっていることから、観光客の利便性を高め、周遊観光の魅力を最大限に高めていくう

えでは、細やかな交通情報の提供、さらには利用しやすい交通網の構築や二次交通の充実を図っていく必要がある。

- ・また、自家用車やレンタカーなど自動車を利用する観光客が多くなっていることから、道路網などのインフラ整備の促進のほか、案内標識・誘導標識の設置、駐車場情報の発信など、観光客にわかりやすい情報の提供を進めていくことが重要である。

#### ④ 観光案内・観光情報等の提供

- ・観光客の誘致を進めるうえでは、圏域内の魅力を十分に伝えていくことが重要であり、観光ニーズに対応する効果的な情報発信を行う必要がある。そのためには、基本となる一元的な窓口として、ホームページの整備を図り、インターネットを活用したわかりやすい情報提供を進めるほか、ガイドブックやマップなどについても、観光客の利便性が向上する内容に充実させていくことが求められる。
- ・各地域の観光案内所においては、地元地域の観光情報の提供のみならず、観光客の次の目的地についての情報提供や、ニーズに対応した観光メニューのコーディネート等ができるよう、案内機能を強化していく必要がある。
- ・また、増加傾向にある外国人観光客をさらに誘客していくためには、外国人観光客にとって周遊観光がしやすい受入環境の整備のほか、多言語での案内機能強化や情報発信の充実を図るなど、安心して観光することができる観光地づくりを進めていくことが重要である。

#### ⑤ その他各種魅力向上策の展開

- ・誘客促進を進める際、圏域内のそれぞれの地域が個別にPRに取り組んできた現状があるが、今後においては「みなみ北海道」の地域イメージを確立し、圏域内が連携したプロモーションを進めるなど、更なる集客に取り組んでいくことが不可欠である。
- ・観光客の満足度を高めるうえでは、観光ニーズの的確な把握が求められており、各地域がPRする観光情報と、観光客の求める情報や観光メニューとの間に乖離があることも想定されることから、当圏域に対する期待と満足度のギャップやズレ、課題や評価について、アンケート調査等により把握・分析する必要がある。
- ・圏域内の滞在促進を進めるうえで、滞在プログラムをコーディネートするコンシェルジュや、体験型メニュー等を支えるインストラクター、十分な観光案内を行えるガイドなどの育成と、レベル向上に取り組むことが重要である。
- ・観光の重要な要素が各地域での地元住民等との交流であり、旅の印象に大きな影響を与えるものであることから、圏域内の住民に対して、観光に対する理解を深め、観光客を受け入れていくための意識変革を促す取り組みを行うことも必要である。

## 7 はこだて観光圏のブランディングコンセプト

### (1) ブランド戦略の方向性

本圏域は広大な面積を有しているが、太平洋側の渡島地域と日本海側の檜山地域の18の市町を包含することによって、「海のもの」「山のもの」どちらの食材も数多く揃う豊かな地域となることから、「食」をキーワードとした観光振興やまちづくりの取り組みを行うことにより、北海道における周遊滞在型観光の拠点として、広く注目される地域として「ブランド化」を図るとともに、国内外からの来訪を促進し、地域全体での経済波及効果を高めるものである。

平成21年度に全国1,000の市区町村について約32,000人に調査を実施した「地域ブランド調査2009」<sup>\*</sup>の結果において、函館市が魅力度ランキングの1位を獲得したが、中でも地域資源の評価として「食事がおいしい」「買いたい土産や商品がある」という項目で1位の評価を得たところであり、全国的に当地域に対する「食」への期待が高いことから、当圏域一丸となった「食」のPRを図り、さらなる集客促進と来訪者の満足度向上、さらにはリピート化に結びつけることが重要である。

また、古くから築き上げられた「歴史」「文化」や「自然」「温泉」といった多様な地域資源を「食」と結びつけることにより、これまで以上に地域の魅力を高め、「食」と観光の融合とその相乗効果による魅力向上と長期滞在を促進することが不可欠であることから、「食は“函館・南北海道”に在り—今だけ、ここだけの旅三昧・食三昧—」をブランド戦略テーマとして設定し、滞在客を受け入れる体制を整えた広域的な観光地づくりに取り組むこととする。

※ 株式会社ブランド総合研究所が平成21年7月に実施したインターネットアンケート調査

### (2) ブランド戦略のテーマ

## 「食は“函館・南北海道”に在り」

～今だけ、ここだけの旅三昧・食三昧～

- ① 道内屈指の「食の宝石箱」「函館・南北海道」の食観光のイメージ確立
- ② 四季を通じた旬の「食」を現地で楽しむ、採れたて食三昧の周遊促進
- ③ 「また食べたい・また出会いたい」の、何度も訪れたい観光地づくり
- ④ 海産・農産・酪農・畜産、18市町の「食」全てを満喫する滞在型観光の推進
- ⑤ 郷土の「食」文化と歴史・芸能・体験などが融合した

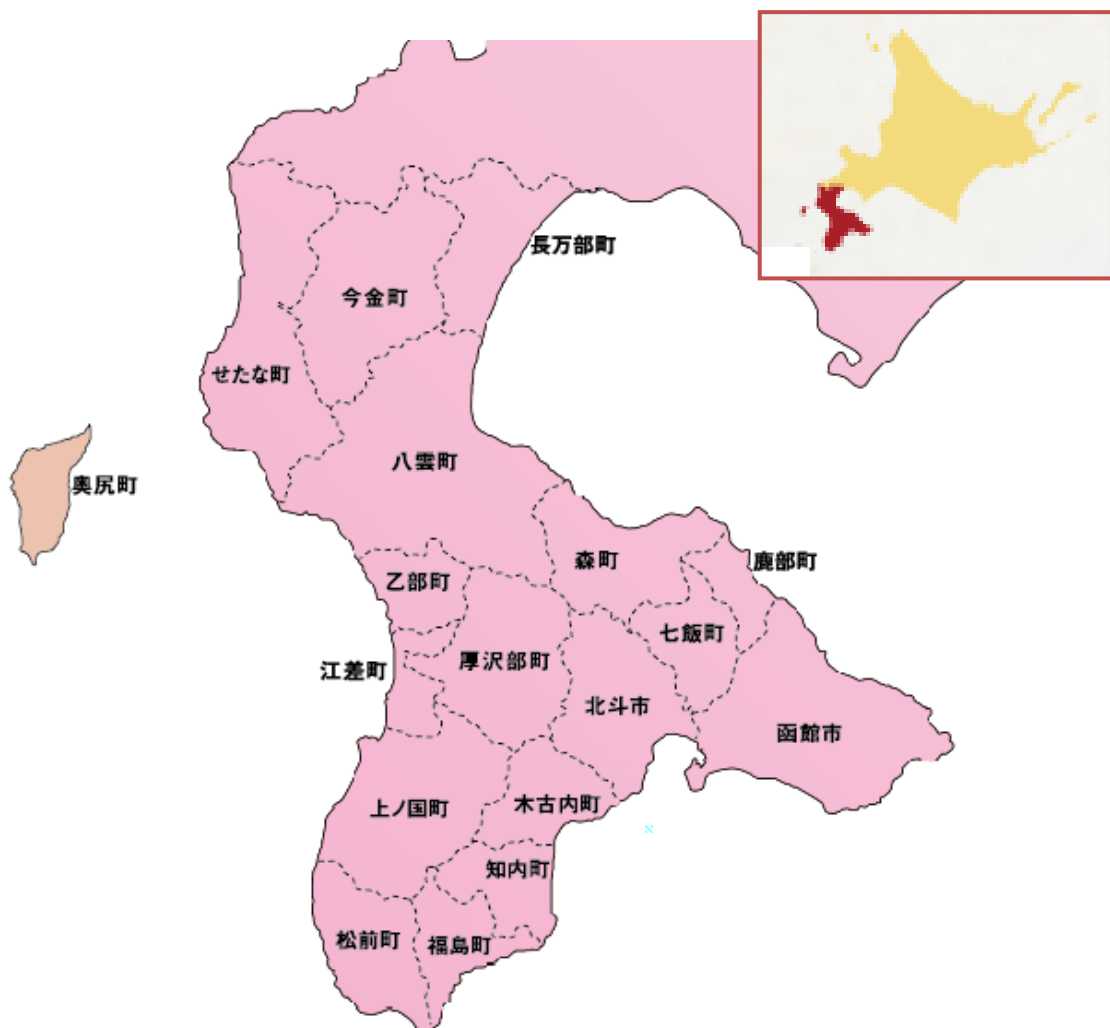
「今だけ・ここだけ・あなただけ」観光の創出と情報発信力強化

## 2 はこだて観光圏 観光圏の区域

### 1 観光圏区域の設定

本観光圏の区域については、「海のもの」と「山のもの」両方の各地域の特色ある豊富な農水産資源を取り込み、これまで築かれてきた函館・南北海道地域における郷土の食文化を網羅するとともに、さまざまな周遊観光メニューにおいて密接に連携してきた歴史・文化、自然・風土など、地域間の関係性を踏まえたうえで、「食」を中心とした観光客の滞在化を促進する広域的な魅力の創出を主眼に、次の18市町の全域を設定する。

北海道函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町、長万部町、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、せたな町、奥尻町、今金町の2市16町（合計18市町）の全域



# 3

## はこだて観光圏 滞在促進地区の区域

### 1 滞在促進地区の設定

本圏域内において、観光客の滞在を促進するため、宿泊地の魅力を高める取り組みを重点的に行う地区として、宿泊施設が複数集積している地区を基本に、次の条件を満たす区域を「滞在促進地区」に設定する。

- ・国際観光ホテル法に基づく登録ホテルや旅館、その他の宿泊施設等が集積しており、安全な宿泊受け入れが可能であること。
- ・滞在促進を図るうえで、事業プログラムが実施できる適当な立地にあり、宿泊を通じて、各種の体験や交流等が図られること。

上記の条件を踏まえ、本圏域の滞在促進地区を次のとおり設定する。

#### ■「都市」滞在エリア（宿泊施設数：123 軒）

函館山の夜景に代表される美しい自然と、異国情緒漂う街並みや湯の川温泉を満喫しながら、豊富な魚介類や野菜・果物などを最大限に生かし、さまざまなジャンルの料理人たちが腕を振るう「旬の味覚の競演」を堪能できる、気ままに美味しいエリア

代表食材：いか・ほっけ・たこ・昆布・特産戸井まぐろ・大根・ニンジンほか

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
函館市市街地中心部	函館市 大町、末広町、元町、谷地頭町、住吉町、宝来町、豊川町、大手町、東雲町、大森町、松風町、若松町、千歳町、新川町	82軒	北海道観光の拠点となる中核都市の函館市中心部は、函館山からの眺望のほか、西部地区の異国情緒ある街並みなど、多くの観光スポットが集まるほか、港まつりやクリスマスファンタジーなど、集客力のあるイベントを展開しており、宿泊施設も充実している。
函館市湯の川温泉	函館市 湯の川1～3丁目、根崎町	34軒	北海道の中の温泉地として古くから開け、約350年の歴史をもつ有数の温泉地として知られ、函館市中心部からは車で約15分、函館空港にも近接している立地環境に恵まれ、宿泊施設も充実している。
函館市恵山周辺地区	函館市 柏野町、原木町、恵山岬町	4軒	雪峰恵山周辺は、つつじを有する恵山道立自然公園のほか、豊富な温泉も湧出しており、魅力的な海の幸を有する眼前の大海原と恵山を抱えた景勝地に宿泊施設があり、訪れた観光客を魅了している。
函館市南茅部地区	函館市 川波町、大船町	3軒	全国屈指の昆布生産地である南茅部地区は、漁業のまちとして知られるほか、縄文時代の遺跡群を有する歴史文化のまちでもあり、静かな山あいにある宿泊施設は、食と温泉の魅力に満ちあふれている。

#### ■「離島」滞在エリア（宿泊施設数：29 軒）

四方を日本海に囲まれ、中世からの歴史ロマンに触れながら、うに・あわび・旬の魚介など海の幸総動員と島時間でお出迎えするエリア

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
奥尻町	奥尻町 稲穂・宮津・球浦・奥尻・富里・青苗・米岡・湯浜	29軒	北海道最西端の奥尻島は羅島北限のフナ原生林など恵まれた自然と、うに・あわびなどの魚介が豊富な島であり、宿泊施設にて近海で取れた島食材を堪能して、のんびりとした島時間に癒されたい。

■「北部」滞在エリア（宿泊施設数：49 軒）

日本海と内浦湾に挟まれ、のんびりと自然を楽しみながら、緑の大地と青い海原から贈られる山海の味覚を、シンプルかつ素朴な味わいとして満喫できるエリア  
代表食材：カニ・ほたて・あわび・男爵芋・軟白ネギ・アスパラ・乳製品など

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
せたな町 北檜山区	せたな町 北檜山区 北檜山区市街地、北檜山区丹羽地区	4軒	せたな町の中心市街地である北檜山区は行政の拠点であり、町内最大の温泉宿泊施設を有し、観光の拠点でもある。
せたな町 瀬棚区	せたな町 瀬棚区	9軒	海と山に囲まれたせたな町において、瀬棚区は豊富な海産物に恵まれ、春から夏にかけて多くの観光客がその海産物を目当てに民宿等に訪れる。
せたな町 大成区	せたな町 大成区	5軒	町内で最も歴史があり、町内最大収容人数を誇る国民宿舎あわび山荘があり、特産品であるあわびを中心とした料理が好評。
八雲町	八雲町 鉛川、上の湯、浜松、桜野、本町、落部、東雲町、立岩、熊石大谷町、熊石雲石町、熊石見日町、熊石鮎川町、熊石平町	22軒	遊楽部岳や雄鉾岳の山々を分水脈として、太平洋（噴火湾）と日本海に注ぐ川筋ごとに点在し泉質が異なる温泉宿をはじめ、市街地には、民宿や旅館がある。日本海と内浦湾の二つの海から水揚げされる豊富な海の幸と、酪農をはじめとする山の幸を堪能できる宿泊施設が充実している。
長万部町	長万部町 字長万部、字大峯	9軒	長万部温泉は中心市街地の近くに8つの温泉施設があり、高酸性弱アルカリ高温泉という肌によく100%源泉かけ流しの温泉である。二股ラヂウム温泉は天然のラヂウムと石灰が含まれた由緒ある温泉で、明治以前から知る人ぞ知る秘湯で本格的な湯治客も多々訪れる。

■「東部」滞在エリア（宿泊施設数：51 軒）

内浦湾・太平洋を望み、駒ヶ岳と大沼の雄大な自然を満喫しながら、牧場と山の幸・海の幸など、生産者の愛情を料理に込めた自慢料理が目白押しのエリア  
代表食材：牛肉・牧場直送の乳製品・きのこ類・かぼちゃ・メロン・りんご・ほたて・ボタンエビなど

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
北斗市	北斗市 七重浜、東浜、飯生、昭和、市森、本町、東前	16軒	日本最初の男子トラピスト修道院や、男爵いもの生みの親である川田龍吉男爵の農場跡地を利用した男爵資料館、大野平野や内浦湾を一望できるきじひき高原など多くの観光スポットを擁する。市内の宿泊施設は、いずれも真心のこもったもてなしが自慢の宿である。
七飯町	七飯町 大沼町、西大沼、東大沼、軍川、上軍川	12軒	大沼周辺には多くの温泉が点在しておりその歴史も古く、ヨーロッパ型リゾート地と呼ばれるだけに宿泊施設も集中している。駒ヶ岳と大沼、そして周辺の自然は、観光のシチュエーションとしてはとても良く、訪れる観光客を魅了する。
森町 市街地 中心部	森町 本町、森川町、新川町、港町	7軒	市街地中心部は、桜の名所である青葉ヶ丘公園やオニウシ公園に近く公園内にはソメイヨシノを筆頭に約20種類の桜1,500本が植えられているほか、「森小町」などの固有種もみられ、5月の「さくらまつり」ではたくさんの花見客でにぎわう。
森町 濁川温泉	森町 濁川	6軒	豊かな田園風景に囲まれた濁川温泉郷。太古の火山噴火によりできたカルデラである濁川盆地には北海道唯一の地熱発電所があり、温泉熱を利用したビニールハウスにより、質の高いトマトや花卉等を生産している。
森町 駒ヶ岳・赤井川	森町 駒ヶ岳、赤井川	5軒	駒ヶ岳、赤井川地区はホーストレッキング等を体験できる牧場や施設が数多くある自然豊かな風景を楽しめるとともに、牛乳の産地として新鮮な牛乳を生かしたチーズやアイスクリームなど、魅力ある食を楽しめる地域である。
鹿部町	鹿部町 字鹿部地区・本別地区	5軒	鹿部町は、海・山と自然あふれる町なかには、泉源が30箇所以上もあり、中でも全国的にも珍しい「圓珠泉」のある町であり、内浦湾という豊かな魚場に恵まれ、漁師町ならではの賑わいとゆつたりくつろげる温泉が訪れた観光客へ安らぎをもたらしている。

■「西部」滞在エリア（宿泊施設数：29 軒）

海と森に囲まれ、歴史と文化に満ちあふれた地域のなかで、「にしんそば」を代表とする風土に育まれた伝統の料理や郷土食グルメを満喫できるエリア

代表食材：うに・あわび・マークイン・とうもろこしなど

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
江差町	江差町 新地町、姥神町、陣屋町、橋木町、 中蔵町、柳崎町、愛宕町、泊	12軒	日本海に翼を広げて浮かぶ「かもめ島」と民謡「江差追分」で有名な江差町は、北前船交易によりもたらされた江差追分などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承され、ロマン漂うまちとして訪れる人を魅了している。
上ノ国町	上ノ国町 宇湯ノ岱、宇大留、宇上ノ国、 宇大崎、宇福石、宇汐吹	8軒	上ノ国町は、豊かな緑と海に抱かれた農林漁業を基幹産業としたまちであり、多くの新鮮な野菜や魚介類を食べることができ、また中心部には「天の川かさざきロード」があり、夜には綺麗な町並みや漁り火を楽しみながらの散歩も魅力がある。
乙部町	乙部町 元町・館浦・元和・豊浜地区	5軒	乙部町は、環境省の快水浴場百選に選定された元和海浜公園「海のプール」があり、夏は多くの海水浴客で賑い、海岸線の風景など自然環境が豊かである。 また、市街地には温泉郷が形成されており、旅館やホテル・日帰り温泉・飲食店などがあり、多くの観光客が訪れている。
厚沢部町	厚沢部町 本町、上里、築町	4軒	厚沢部町は、札幌酒粕の焼酎「喜多里」工場や循環型バイオマスプラント施設の見学、土橋自然観察教育林（レクノ森）での散策やうずらダムオートキャンプ場でのアウトドアなどが楽しめ、本格中華料理店を併設したうずら温泉宿泊施設など、食と温泉を満喫できる。 (※他に、ちよつと暮らし移住促進用住宅4棟を有する)

■「南部」滞在エリア（宿泊施設数：35 軒）

津軽海峡に面し、松前藩の歴史を受け継いだ食文化や、大相撲横綱力士の輩出を背景とするちゃんこ鍋など、地域の素材を生かした海峡の美味しいふるさとの味を堪能できるエリア

代表食材：松前まぐろ・千軒そば・マコガレイ・ホッキ・牡蠣・ニラなど

地区名	所在地	宿泊施設数	設定理由
松前町 市街地	松前町 白神～建石	5軒	市街地には、「北海道遺産の松前城と寺町」「日本さくらの名所100選」に選定された松前公園があり、毎年さくらまつりには20万人の観光客が訪れ、宿泊施設も充実している。
松前町 大島地区	松前町 清部～原口	4軒	大島地区は、風光明媚な海岸線など数多くの景勝地を有し、マリビジョン構想による都市漁村交流の拠点として整備が進められ、漁家民宿などの宿泊施設も充実している。
福島町	福島町 福島、月崎、宮歌、千軒	7軒	海峡と横綱の里として2つのメモリアル施設がある福島・月崎地区は、町内の宿泊の拠点地域として、また、津軽海峡が一望できる宮歌地区と、道南の秀峰大千軒岳に近い千軒地区は、自然を満喫したい方にお薦めである。
知内町	知内町 字中の川、字重内、字元町、字涌 元、字小谷石、字湯の里、	13軒	知内の南端に位置する矢越岬とその一帯は「道立松前矢越自然公園」に指定され、断崖絶壁の連なる雄大な海岸美を誇り、開湯800年と伝えられる本道最古の温泉、更には牡蠣やニラの産地として海や山の恵み豊かな町として観光客を魅了する。
木古内町	木古内町 字木町、宇大平、字亀川	6軒	歴史のロマンと鮮やかな自然が織りなす木古内町は、数万球のチューリップが咲き誇り、種馬丸が眠るサラキ岬や、一面に広がる芝桜が美しい薬師山・萩山などの観光拠点が、地場の食や湯などをも有し、自然を満喫できる。

# 4 はこだて観光圏 観光圏整備計画の目標

## 1 数値目標

はこだて観光圏を形成し広域観光を推進することにより、圏域内の周遊観光を促進し、計画期間である平成26年度までに、圏域内各市町観光入込客数（延べ数）を、毎年4%増の積み上げを目指し、1,302万人（対平成20年度比で217万人増、20%増）とすることを目標とする。

目標項目	単位	平成20年度【実績】	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
観光入込客数（延べ数）	万人	1,085	約20%増加				1,302

また、滞在型観光地づくりに取り組むことにより、圏域内の宿泊滞在化を促進し、宿泊客数について、毎年5%増の積み上げ、現在の一人あたり宿泊数を1.45泊から1.82泊とすることを目標し、623万人泊（対同比で125万人泊増、25%増）とすることを目標に、さらに、外国人宿泊客数については、訪日外国人旅行者数に関する国の目標である1.37倍（約730万人を1,000万人）に準拠し、10.0万人泊（対同比で3.1万人泊増、約45%増）とすることを目標とする。

目標項目	単位	平成20年度【実績】	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
一人あたり宿泊日数	泊/人	1.45	約25%増加				1.82
宿泊客（延べ数）	万人泊	498.4	約25%増加				623.0
外国人宿泊客（延べ数）	万人泊	6.9	約45%増加				10.0

この他にも、教育旅行の誘致実績数、再来訪率、一人あたりの観光消費額、観光満足度等の向上に取り組むものとし、圏域における現状把握および分析を早急に行う。これらについては、数値の把握がなされた時点で随時見直しを図るものである。

## 2 推進体制の確立

はこだて観光圏の取り組みを自立的かつ継続的に展開するため、計画期間内において、地域での推進体制を確立する。

推進体制は、はこだて観光圏整備推進協議会の下部組織として、テーマにわかれた部会を設置し、具体的な検討は部会において実施するほか、テーマによっては広範な18市町のエリアをブロック分しながら、縦横の連携を密にし、観光客に対して迅速かつきめ細やかな対応が可能な機動性のある体制を組織する。

また、整備事業として取り組む「(仮称)みなみ北海道観光カレッジ」を活用し、実践を通じた人材の活用展開を図るほか、外部の専門家などとも連携し、より効果的な展開を目指すこととする。

# 5

## はこだて観光圏

# 観光圏整備事業に関すること

### 1 観光圏整備事業の概要および実施主体

#### (1) 宿泊魅力の向上に関する事業

##### ① 「食と宿泊コンテンツ」魅力アップ事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(1)-①-a	圏域内の豊富な地場産品を活用し、特色ある食の提供と連泊における食の魅力向上事業	■圏域内ホテル・旅館等組合、宿泊施設	平成 23-26 年度
(1)-①-b	滞在促進地区内および、滞在促進地区同士でも共有可能な湯巡りの仕組みを構築し、周遊しながら温泉を満喫できる取り組みを展開する。	■圏域内ホテル・旅館等組合、宿泊施設 ■圏域内温泉・入浴等施設	平成 22-26 年度
(1)-①-c	宿泊者を対象とした、早朝散策や夜の昆虫鑑賞・星空鑑賞などのミニプログラムを宿泊施設において企画・実施し、宿泊の付加価値を高める。	■圏域内ホテル・旅館等組合、宿泊施設 ■圏域内各観光協会	平成 22-26 年度
(1)-①-d	圏域を6つのブロックに分け、それぞれ別のブロックに2泊以上した観光客を対象に、抽選で圏域の特産品などを提供するキャンペーンを実施する。	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■圏域内各観光協会	平成 23-26 年度

##### ② 「宿泊対応力強化」人材育成事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(1)-②-a	滞在促進地区内の宿泊施設が、観光圏内における宿泊者の旅行(着地型旅行)商業者代理業の取得促進	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■函館ホテル旅館協同組合 ■八雲観光協会	平成 23-26 年度
(1)-②-b	圏域内宿泊施設等の従業員を対象に、接客・接客研修を実施し、観光ホスピタリティのレベル向上を図る。	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■圏域内各観光協会	平成 23-26 年度

## (2) 観光コンテンツの充実に関する事業

### ① 「食めぐり周遊ルート」魅力アップ事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(2)-①-a 食めぐり広域観光 ルート創出事業  ※(2)-①-bと連動	圏域内にある「食」と観光資源を有機的に結びつけた具体的な食めぐり広域観光ルートを設定し、ガイドマップの作成や、WEBサイトを活用した周知広報を行うほか、着地型商品への組み込みなどでの展開を図る。	■はこだて観光圏整備 推進協議会  ■圏域内観光協会・飲食店	平成 22-26 年度
(2)-①-b 圏域内周遊型共通 チケット「ドライ ブ&ステイ」事業	圏域内にある飲食施設、観光施設、入浴施設などで利用出来るお得な周遊型共通チケットを発行し、圏域内の周遊促進と、滞在の魅力向上を図る。	■はこだて観光圏整備 推進協議会  ■圏域内観光協会・飲食店	平成 22-26 年度
(2)-①-c 函館発ミニツアー 創出事業	函館を起点として、「食」を中心に気軽な日帰り周遊観光などが楽しめるモデルルートを創出し、観光客に近距離型ミニツアーを提供する実証事業を行う。	■函館地区バス協会  ■函館ホテル旅館協同 組合  ■函館市	平成 22-26 年度
(2)-①-d みなみ北海道スタ ンプラリー事業  ※(2)-①-fと連動	圏域内でこれまで取り組まれてきた毎年実施されるスタンプラリー事業を集約し、「食」めぐりスタンプラリーのようにテーマ別の周遊や、全テーマ制覇を楽しめる仕組みの構築など、内容の充実を図り、周遊化とリピート化を促進する。	■(仮称)みなみ北海道 観光推進協議会	平成 22-26 年度
(2)-①-e 郷土食ブランド化 事業	これまで実績のある「檜山の郷土食」を宿泊と連動したプログラムとして練り上げ、地域文化を満喫することができるメニューとしてブランド化を促進する。また、松前町の「藩主御膳」をモデルに、北前船時代の食や、さらには石器時代、縄文時代などの歴史文化を体感できる食の再現に取り組むなど、各地域に潜在する地域独自の食文化を発掘し、宿泊型メニューとして展開する。	■はこだて観光圏整備 推進協議会  ■環駒ヶ岳広域観光協議会  ■圏域内観光協会・飲食店	平成 22-26 年度

(2)-①-f 圏域内新グルメ (どうなんグルメ) 開発普及事業	圏域内において、名産品開発や新たなご当地料理を創出し、PRやファンづくりのイベントの実施、ご当地料理を楽しむ「食」キャンペーンにより周遊化を図る。 ■北前船やにしん漁の栄華を彷彿とさせる「にしん街道食めぐり」の確立 ■地元独自の心も体も温まる鍋「どうなん鍋」を開発し、商品化と販売網を構築 ■南北海道産の米や豊富な食材を用いた統一こだわり丼「どうなん丼」の創出	■北海道歴史倶楽部 松前、江差、上ノ国町 各観光協会・飲食店 ■環駒ヶ岳広域観光協議会 森、七飯、鹿部町 各観光協会・飲食店 ■はこだて観光圏整備 推進協議会 圏域内観光協会・飲食店	平成 22-26 年度
(2)-①-g 農漁業活用型メニ ュー創出事業	いか釣りに代表されるような、農業や漁業の体験と食の提供を組み合わせた「とれたて」を体感するメニューを創出し、一次産業と連携した食の充実を図る。	■圏域内観光協会 ■農・漁業協同組合等	平成 23-26 年度

## ②「広域イベント」魅力アップ事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(2)-②-a 「みなみ北海道周 遊「食」めぐりウル トラクイズ」事業	圏域内各地でうんちく型クイズに挑戦しながら巡る、新たな周遊イベントを創出する。各滞在エリアでの予選、奥尻島での決勝戦などを想定し、勝者は豪華地元料理、敗者は地元ミニサイズの食事など、勝者敗者とも「食」と観光を満喫できるプランづくりで、集客を促進する。	■はこだて観光圏整備 推進協議会 ■圏域内観光協会・飲食店	平成 23-26 年度
(2)-②-b パークゴルフ周遊 プレイラリー事業	圏域内にあるパークゴルフ場において、パークゴルフを楽しみながら各施設を周遊し、スコアを競い合うプレイラリー事業や、プレイの合間の「食」の充実、参加登録制による統一料金の設定を検討するなど周遊の仕組みを構築する。	■圏域内観光協会 ■各パークゴルフ施設	平成 22-26 年度
(2)-②-c 圏域内イベント連 動化の検討	圏域内で開催される各イベントを、特定期間内で一日ずつ開催日程をずらし、観光客が周遊しながら全てのイベントに参加できるような体制の構築とイベント周遊型旅行商品造成の検討を深める。	■はこだて観光圏整備 推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 23-26 年度

### (3) 交通・移動の利便性向上に関する事業

#### ① 観光移動利便性向上事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(3)-①-a 圏域内2次交通調査研究事業	既存の公共交通、各地域独自の域内交通、レンタカー、レンタサイクル等の運行や連携について、関係者と専門家による勉強会を行い、2次交通の利便性向上に関する研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■はこだて観光圏整備推進協議会</li> <li>■圏域内観光協会</li> <li>■交通関連等事業者</li> </ul>	平成 22-26 年度
(3)-①-b みなみ北海道パスの導入検討	圏域内の移動において、JR、バス、フェリー、シャトルバス、高速バス等の全てが乗り放題になる「みなみ北海道パス」の導入について検討を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■はこだて観光圏整備推進協議会</li> <li>■圏域内観光協会</li> <li>■交通関連等事業者</li> </ul>	平成 22-26 年度
(3)-①-c 地域間を結ぶ道路網の整備促進（要望）	圏域内における主要拠点間の移動の円滑化を図り、観光客の利便性向上による周遊を促進するため、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道といった高速道路や基幹的な道路の整備について、地域が一体となり関係機関に要望を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■はこだて観光圏整備推進協議会</li> <li>■圏域内観光協会</li> <li>■圏域内関係市町</li> </ul>	平成 22-26 年度
(3)-①-d 旅客船受け入れのためのインフラ整備促進（要望）	観光地としてのイメージ確保とともに、観光客の利便性の向上を促進し、旅客船需要の増加を図るため、函館港において必要なインフラ整備等について、地域が一体となり関係機関に要望を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■はこだて観光圏整備推進協議会</li> <li>■圏域内観光協会</li> <li>■圏域内関係市町</li> </ul>	平成 25-28 年度

## (4) 観光案内・観光情報の提供に関する事業

### ① 圏域観光案内機能充実事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(4)-①-a みなみ北海道広域 観光案内所設置事 業	既存の観光案内所や道の駅、地域の核となる商店街などと連携した広域観光案内所の設置に向け、圏域内の案内や各種対応が可能なコンシェルジュを養成する。 (参考：まちかど観光案内所（函館市）や、百人の語り部（江差町）との連携など）	■はこだて観光圏整備 推進協議会 ■圏域内観光協会 ■函館ホテル旅館協同 組合	平成 24-26 年度
(4)-①-b 観光ボランティア スキルアップ事業	圏域内各地域で活躍する観光ボランティアガイドの知識やガイド能力の向上を図るため、研修会や勉強会を実施するほか、各地域のガイド同士やご当地検定合格者のほか地域限定通訳案内士などが交流する場づくりを行い、人材育成と新たなガイドの養成を図る。	■はこだて観光圏整備 推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 22-26 年度
(4)-①-c 多言語表記化促進 事業	外国人観光客が安心して圏域内を訪れられるよう、宿泊施設や飲食施設、観光施設の多言語表記化を促進するとともに、外国語会話が出来ない場合でも簡単なコミュニケーションが出来る「指さし会話集」等を整備し対応力向上を図る。	■はこだて観光圏整備 推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 23-26 年度

### ② 圏域観光情報発信機能強化事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(4)-②-a 観光圏パンフレッ ト作成事業	圏域共通ロゴ，統一的なデザインによる総合的なパンフレットを作成し，多言語化を図るなど，広く観光情報を提供する。	■（仮称）みなみ北海道 観光推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 22-26 年度
(4)-②-b みなみ北海道観光 情報サイト整備事 業	圏域内に関する観光関連情報を，インターネットを活用して発信するため，既存の総合ポータルサイトにおける情報発信環境を強化するとともに，ブログ等による旬の情報・リアルタイムな情報発信や，多言語化などサービス向上を図る。	■（仮称）みなみ北海道 観光推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 22-26 年度

## (5) その他観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する事業

### ① その他観光圏魅力創出事業

事業メニュー	事業概要	実施主体	実施時期
(5)-①-a 観光圏プロモーション事業	当圏域を訪れる旅行商品の造成促進を図るため、旅フェアなどに出展し、広く観光圏についての宣伝を行うほか、都市圏の旅行代理店等への観光プロモーションを実施する。また、物産展などとも連携し、広くPR事業を展開する。	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■圏域内観光協会 ■圏域内物産協会	平成 22-26 年度
(5)-①-b モニタリング調査事業	観光圏内の統一基準を設定し、観光客の動向調査を実施し、周遊経路や満足度、観光消費額などの各種基礎データを把握することで、今後の戦略的な事業展開に資する。(観光客満足度調査、マーケティング調査、観光消費額調査、外国人観光客動向調査など)	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■圏域内観光協会	平成 23-26 年度
(5)-①-c みなみ北海道観光カレッジ(仮称)の創設	圏域内の高等教育機関のほか、各市町や地元NPO法人などが取り組む観光関連の人材育成事業のほか、地域を学ぶ「地域学」の講義などとも連携を図り、みなみ北海道の広域観光に資する人材を総合的に育成する「(仮称)みなみ北海道観光カレッジ」の創設に向けた取り組みを進める。	■はこだて観光圏整備推進協議会 ■圏域内高等教育機関	平成 23-26 年度

# 6

## はこだて観光圏 観光圏整備計画期間等

### 1 計画期間

本計画の期間は、平成22年度から26年度までの5年間とする。

### 2 計画内容の見直し

本計画策定後は、事業の進捗状況把握および事業の推進を積極的に行うとともに、観光を取り巻く社会経済情勢の変化に対して的確に対応するため、必要に応じて計画内容の見直しを行うものとする。

特に、今後事業を推進するうえで、観光圏整備に伴って活用が可能な制度の導入については、積極的な活用を図るための検討協議を行い、適宜計画変更手続きを行うものとする。

また、観光動向やニーズの変化を踏まえつつ、当圏域で提供する観光サービスや滞在プログラムの品質向上にむけての改善が図られるよう、随時事業内容の点検と見直しを繰り返し、本計画をより良いものに練り上げていくこととする。

本計画の見直しについては、はこだて観光圏整備推進協議会における協議により決定するものとし、その決定に従い、協議会の事務局が計画変更手続きを行う。また、本計画の変更に伴う観光圏整備実施計画の変更も同時に行うものとする。

なお、計画の変更については遅滞なくこれを公表するとともに、国土交通大臣、北海道知事あて報告を行うものとする。

# 7

## はこだて観光圏

# その他市町村又は都道府県が必要と認める事項

### 1 既存計画との連携について

本計画は、函館・北海道地域における滞在型観光の促進を図るものであり、さまざまな地域資源を活用し、魅力ある観光地づくりを行ううえでは、本圏域内において策定・実施されている各種計画や施策と連携し、当該計画と本計画とにより相乗効果が得られるよう取り組みを進めることとする。

### 2 圏域内における各種計画等について

#### (1) 観光資源としての魅力向上

##### ①西部地区(都市景観形成地域)のまちづくり構想【函館市】

観光エリアと知られ、都市景観形成地域に指定される函館市西部地区では、歴史的建物の保全やライトアップのほか、施設の有効活用により魅力的な都市空間の創出に努め、異国情緒漂う独特の街並みを継承する取り組みを進めている。

##### <西部地区都市再生整備事業(まちづくり交付金事業:H18-H22)>

西部地区道路整備・夜景グレードアップ整備等による都市整備の推進

##### ② 地域再生計画

##### ○ 函館国際水産・海洋都市構想【函館市】

函館地域の水産・海洋に関する資源やポテンシャルを活用した「国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市」の形成を目的としたまちづくり構想であり、研究機能の戦略的な集積や産学官連携強化から生まれる研究成果や革新技術を通じて、地域経済の活性化を図る。

##### ○ 函館国際水産・海洋都市構想の推進

##### ～水産・海洋に関する学術研究拠点都市の形成～【函館市】

函館市と北大とが連携し、水産・海洋に関する基礎的な科学技術の知識を持ち、構想の実現を支える「水産・海洋サポーター」や地域企業と学術研究機関を結びつける「水産・海洋コーディネータ」を育成する。

### ③ 地域雇用創造推進事業・実現事業【厚生労働省・はこだて雇用創造推進協議会】

函館市や経済団体等の創意工夫により実施する雇用機会の創出や地域経済活性化のため、各種の雇用機会増大に資する事業を展開する。

- ・観光事業者経営指導セミナー（H21-H23）
- ・宿泊施設即戦力人材育成講座（H21-H23）
- ・地域観光マネージャー養成講座（H21-H23）
- ・外国人観光客サポートガイド養成講座（H22-H23）
- ・地域限定通訳案内士養成講座（H22-H23）
- ・イベントコーディネーター養成講座（H22-H23）
- ・着地型地域観光コンシェルジュ創出事業（H21-H23）※実現事業

### ④ 新幹線で未来を創るまちづくり構想【函館市】

平成27年度における北海道新幹線新函館の開業を見据え、来るべき新幹線時代において、豊富な地域特性を十分に生かしながら、官民一体となって個性豊かで魅力的なまちづくりを進めるため、観光振興や企業の育成・誘致等各種施策を総合的に展開し、開業による経済効果を最大限に発揮させ、函館市および道南地域さらには北海道全体へと波及させていくことを目指す。

### ⑤ 北海道新幹線開業はこだて活性化アクションプラン【北海道新幹線新函館開業対策推進機構】

北海道新幹線の開業効果を地域の発展に最大限に結びつけていくため、函館商工会議所、函館市、(社)函館国際観光コンベンション協会が主体となり協議会を設置し、「観光振興」、「産業振興」、「交通アクセス」の3分野について「新幹線で未来を創るまちづくり構想」の基本的な考え方を踏まえ、具現性の高い施策を盛り込み策定したものであり、平成21年度からは協議会を推進組織として改組し専任事務局を設け、官民一体となって計画推進に取り組んでいる。

### ⑥ シーニックバイウェイ北海道

#### ○ 函館・大沼・噴火湾ルート（指定ルート）

空路・海路・鉄路における北海道の玄関口を有する地域として、函館市・北斗市・七飯町・森町・鹿部町・八雲町の2市4町が連携し、都市景観から農村・漁村景観を有した「人と人とをつなぐみち」をテーマに、地域住民と来訪者との交流を深めるイベントなどを積極的に取り組んでいる。

#### ○ どうなん・追分ルート（候補ルート）

受け継がれた文化と豊かな歴史遺産をもつ地域の魅力を活性化させるため、木古内町・知内町・福島町・松前町・上ノ国町・江差町・乙部町・厚沢部町・奥尻町の9町が連携し、地域の魅力を掘り下げた独自の活用に取り組んでいる。

## ⑦ 世界文化遺産登録に向けた取り組み

大船遺跡に代表される「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産登録に向け、学術的・専門的な調査や研究を進め、平成27年度の登録に向けて保存・活用計画や、包括的な景観保存などに取り組む。

## ⑧ 滞在促進地区調査(移住促進事業関連)【厚沢部町】

厚沢部町において、厚沢部建設協会が事業主体となり、定住・二地域居住促進を図るための長期滞在を目指した田舎での「ちょっと暮らし」を推進する移住体験住宅を建設し(平成22年度から稼働予定)、事業のPRや、問い合わせ、受付等については、町が出資する「素敵な過疎づくり株式会社」において取り組みを進める。

## ⑨ 大沼駒ヶ岳の観光資源を利用する取り組み【北海道】

大沼公園へのアクセスや湖畔道路の整備を行い、平成27年度に開業が予定されている北海道新幹線新函館駅や高速道路からの観光客を取り込む。

## (2) 圏域内における移動の利便性向上・社会資本整備事業

### ① 北海道新幹線の整備促進【独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構】

全国高速交通ネットワークの一環を形成し、北海道の産業・経済・文化等の振興発展を図るうえでも欠かすことのできない北海道新幹線の整備について、平成27年度の新函館開業の整備促進はもとより、札幌までの早期着工に向けて、要請活用を展開する。

### ② 北海道縦貫自動車道の整備促進【国土交通省・東日本高速道路(株)】

本路線は、札幌を中心とする道央圏と道南圏との連携強化を図るとともに、渡島・檜山北部地域と高次都市機能を有する函館市を結ぶ必要不可欠な基盤施設であり、函館・江差自動車道や函館新道、函館新外環状道路と一体となって、南北北海道の高速交通ネットワークを形成し、さらに、函館空港や北海道新幹線とともに高速交通体系を確立するものである。これらにより、観光客の流動性の向上等による地域の産業経済の振興発展に大きく寄与することから、大沼～落部間の早期供用並びに七飯藤城～大沼間の整備促進を要請する。

### ③ 高規格幹線道路函館・江差自動車道の整備促進【国土交通省】

本路線は、広域観光圏の形成のみならず、渡島西部・檜山地域と函館市を結び、商工業品や農水産品等の輸送機能向上や産業経済の活性化、災害時の国道228号の代替路や避難路の確保においても極めて重要な役割を担う路線であることから、北斗～木古内間の早期供用ならびに木古内～江差間の整備促進を要請する。

#### ④ 函館新外環状道路の整備促進【国土交通省】

本路線は、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道、国道5号函館新道と一体となって高速交通ネットワークを形成するとともに、北海道新幹線と函館空港とを結ぶことにより道内他都市圏との連携が強化され、さらには、各インターチェンジにおいて、幹線道路と有機的に結節することによって、都市内交通環境の改善はもとより、地域の基幹産業である観光や開発プロジェクトであるテクノポリス関連施設へのアクセスが確保され、産業や経済における地域のポテンシャルの向上など、極めて重要な路線であることから、函館IC～空港IC間の早期供用を強力に要請する。

#### ⑤ 北海道新幹線新函館(仮称)駅周辺のアクセス道路の整備促進【北海道】

平成27年度に予定される北海道新幹線の新函館開業は、東北や首都圏とのアクセス時間が大幅に短縮され、交流が活性化し、各種産業分野への経済波及効果が期待されるものであり、道南地域をはじめ北海道全域に新幹線開業効果を波及させるため、新函館駅と駅北側を結ぶ道道新函館七飯停車場線(仮称)や国道227号を結ぶ道道渡島大野停車場線の整備促進を図る。

#### ⑥ 北海道縦貫自動車道及び高規格道路からのアクセス道路の整備促進【北海道】

各関係機関と連携しての交通ネットワーク網の整備に取り組み、圏域の発展に不可欠な高速自動車道から各地域へ連絡できるインター線の整備促進を図る。  
(各インターから一般道へのアクセス整備)

#### ⑦ その他の国道、道道等の幹線道路

道南地域が新幹線時代を迎えるにあたり、住民の安全安心な暮らしの確保はもとより、観光や農林水産業など地域の産業や経済を振興し、活力にあふれた賑わいのあるまちづくりを進めるためには、北海道縦貫自動車道や函館・江差自動車道などの高規格幹線道路網を補完し、地域の交流・連携を強化する一般国道や道道などの広域幹線道路が極めて重要な役割を担うことから、整備促進を要請する。

**8** はこだて観光圏  
**協議会に関する資料等**

平成 22 年 2 月協議会発足予定。

# 9

## 住民その他利害関係者の意見を反映させるための 措置及び反映内容

整備計画策定後も、住民及び利害関係者から意見等の募集を行う予定。